

プラスチックと精密プレス
の開発・生産に独
創的なアイデアで挑戦

信州
吉野電機




FUKU
KATSU

複業活動

働き方に彩りを。



さくらとクローバー

 **ユニークな形状ティー**
かんざしのように髪に挿してもかわいい!

 **土に還るエコなティー**
生分解プラスチック:バイオPBS製
地中のバクテリアに分解されます。

【会社名】 信州吉野電機株式会社

【概要】
1979年長野県塩尻市に創業以来、エンジニアリングプラスチックと精密プレスの開発・生産、自社開発した生産管理システムやFA機器内製化など、独創的なアイデアで挑戦し続けてきた。

2018年からtoC向けの製品開発に乗り出し、直近では生分解性プラスチックを活用した「かんざしていい」を開発。自社の製品開発を通じた技術提案型企业への脱却を図る。



目指すは“技術開発提案型企業”

経済最前線 戦略に迫る

プラスチック成形、精密プレス部品製造の「信州吉野電機」（塩尻市）が消費者向け商品として、環境に優しい生分解性プラスチックを使った「ゴルフティー」「かんざしいー」を開発した。主に相手先ブランドによる生産（OEM）を手掛けてきた中で自社製品の開発に取り組んだ意義や、技術開発提案型の企業を目指す意気込みなどを吉野智胤社長（42）に聞いた。

（聞き手・小野博志）
——生分解性プラスチックを材料にした意図は。

信州吉野電機 吉野 智胤 社長

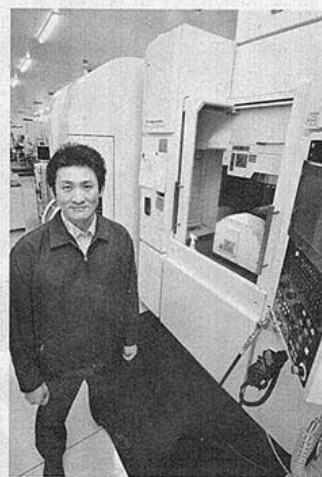
信州吉野電機 1979年設立。資本金5000万円。従業員数94人、平均年齢39・5歳。「かんざしいー」は、ボールを載せる部分を桜の花や四つ葉のクローバーに見えるようにデザインした。ショート12本入り、ロング6本入り、ショートとロング計12本入りの3種類で、同社直販サイトやゴルフ場で扱っている。

自社製品通じ技術提案

2018年に初の消費者向け商品として、グリーンフォークとティーを一体化したプラスチック製品を発売した。今回はプラスチックごみの環境への影響がクローズアップされ、販売先のゴルフ場の声も受け、プレー中になくても分解されて土にかえるよう生分解性プラスチックを採用した。



「かんざしいー」のショートティー（左）とロングティーの各セット



技術開発提案型企業として成長を目指す吉野社長

1977年生まれ、塩尻市在住。帝京大経済学部卒。アメリカに留学し、国際経営学修士号取得後、メキシコの成形工場で2年間働き、2007年に信州吉野電機入社。専務を経て19年10月に社長就任。

当社が生分解性プラスチックを扱うのは初めてで、成形にも工夫が必要だったが、今後、生分解性プラスチックで部品を作ってほしいという相談を受けた時、自分たちに知見があるのは大きい。金型は、耐久性の面で不向きとされるアルミを用い、量産技術を検証することもできた。

——「かんざしいー」は女性が髪の毛に挿して持ち歩ける。
おしゃれで、かわいい形にすればニーズがあるかもしれないと思っただけ。髪を結んだ女性がティーを挿したパッケージのデザインは、塩尻市を通じて、信州大の学生に依頼して制作した。

——完全請負受注型から技術開発提案型の企業に転換していく方針を5年前に打ち出した。
どんなに難しい注文でも懸命にこなし、技術的付加価値

【こんな人を求めています】

- ・プラスチックの成形、金型の技術を生かした生活を便利にする新商品企画開発に挑戦したい方
- ・塩尻の異業種（ワイン、農業、木曽漆器etc.）×工業技術で地域の課題を解決するコラボ商品の開発を実現したい方
- ・上記を含めた自社商品のPRや販路拡大を行える方